

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道6号千代田石岡バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 関東地方整備局
起終点 白：茨城県かすみがうら市市川 至：茨城県石岡市東大橋	延長 5.8 km	
事業概要 国道6号は首都圏から太平洋沿岸部を縦貫し、茨城県南地域及び県北地域の都市間の連携を図る幹線道路である。千代田石岡バイパスは、国道6号の交通混雑の緩和や沿道環境の向上とともに、百里飛行場連絡道路の一部として、民間共用した茨城空港へのアクセス向上に大きく寄与するものである。		
H10年度事業化	H8年度都市計画決定 (H一年度変更)	H15年度用地着手
H16年度工事着手		
全体事業費	約272億円	事業進捗率
		61%
		供用済延長
		0km
計画交通量	7,700~21,100台/日	
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 4.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 98/286億円 事業費：78/266億円 維持管理費：20/20億円
		総便益 (残事業)/(事業全体) 429/429億円 走行時間短縮便益：367/367億円 走行費用減少便益：45/45億円 交通事故減少便益：17/17億円
		基準年 平成25年
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.4~1.6 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.5 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.4~1.7 (事業期間±3年)		
【残事業】交通量：B/C=4.2~4.7 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=4.1~4.8 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=4.2~4.8 (事業期間±3年)		
事業の効果等 ①交通混雑の緩和 ・当該区間の並行区間である国道6号（現道）の損失時間は、261.6千人時間/年・kmであり、全国平均の約10倍である。 ・千代田石岡バイパスの整備により、現道区間の通過交通の転換に伴う円滑化が図られ、交通混雑の緩和が見込まれる。 ②安全安心な通行の確保 ・当該区間の並行区間である国道6号（現道）の平均死傷事故率は、120.1件/億台・kmであり、全国平均の約1.2倍である。 ・千代田石岡バイパスの整備により、現道区間の通過交通の転換に伴う交通の円滑化が図られ、交通事故の減少が見込まれる。		
関係する地方公共団体等の意見 ・茨城県知事の意見： 一般国道6号千代田石岡バイパスは、石岡市内に混入する通過交通を分散することにより、交通渋滞の緩和、安全性の確保や常磐道千代田石岡ICから茨城空港へのアクセス性向上、物流機能の強化・企業活動の活性化、地域産業の振興に大きく寄与するなど事業の必要性が高く、継続は妥当と考える。このため、より一層のコスト縮減を図りながら、早期完成に向け事業を推進されたい。		
事業評価監視委員会の意見 事業の継続を承認する。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 2010年3月に茨城空港が開港し、空港を核とした地域産業振興が期待されている。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成10年に事業化し、平成15年度から用地着手、平成16年度工事着手。用地取得率は89%（平成25年5月末、面積ベース）。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 今後、引き続き用地の取得を推進するとともに、早期供用に向けて事業促進を図る。		
施設の構造や工法の変更等 新技術の積極的な活用により、コスト縮減に取り組む。		
対応方針	事業継続	
対応方針決定の理由	以上の事業の効果及び進捗状況、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、本業務は、交通混雑緩和、茨城空港へのアクセス機能の強化の観点から、事業の必要性、重要性は高く、早期の効果発現を図ることが適切である。	

